

# 本興寺だより

令和三年  
十月  
第二二六号

「深く罪福の相を達して 遍く十方を照らしたもう  
微妙の淨き法身 相を具せること・・・法身を莊嚴せ  
り 天・人の戴仰する所 龍神もことごとく恭敬す」

(法華經 提婆達多品第十二)

自民党の新総裁も岸田文雄氏に決まりましたが、日替わりランチの如く国のリーダーが短期間でコロナと変わると、国の威厳・重み・威信が世界で軽んぜられてきます。

「小異を捨てて大同につく」ように、個人も、社会も、国家も、公を見つめて私的な心を調和していく中で、秩序と繁栄が保たれると云われます。

人は、苦悩に会った時、どうしてもその原因を外側の他人や社会の制度に向けがちですが、苦悩を引き寄せ易い自己の思考や見方、そこから脱出できる方法や心の在り様を見つめ、気付くことが大事であると云われます。

冒頭の文のように、仏様は私達が罪を作ったり福を積んでいる有様をすっかり見通し、遠視しておられる



龍神を始めとする神々の力が人にも差し伸べられるのだと云われます。  
ここで色々な神々の内、龍神について述べたいと思います。

龍神様とは、天地・水中を自由に動き回り、龍神が動くときの流れが起り、雲を動かす、風を吹かせ、雨を降らせ、気象・海洋・地熱を司る神でもあります。

お釈迦様のご降誕の時、天から龍神が舞い降りて香水(甘露の雨)を注がれたとの伝承があります。お釈迦様が法華經の教えを説かれた会座に、仏法を守護する八大龍王(八体の龍神)が姿を現わされています。日蓮聖人も法華經の守護の龍神の力で九死に一生を得られておられます。

日蓮聖人は、鎌倉幕府に国の憂いを諫言して「立正安国論」を呈上した時捕らえられ、龍ノ口(現在の藤沢市片瀬)に於いて正に斬首されんとした時、江の島の方から光の玉がやってきて、その衝撃で振り下ろした刀が折れ、聖人の首を切ることが出来なかつた上、突然の轟音とともに豪雨となり刑場が大混乱したとあります。処刑中止を幕府へ具申する刑場の使者と、一方、胸騒ぎを感じ聖人の処刑の中止を決定した幕府の、赦免を刑場へ伝達する両方の使者が行き合ったのが、江ノ電の七里ガ浜近くを流れる「行合川」

(ゆきあいがわ)です。  
「龍ノ口」の地名は、昔この地方を荒らした五頭龍が、弁財天の力に改悛し、山と変じて人を守る誓いを立てたその龍の頭部く口がこの地であったことから名づけられた名です。龍神は天空を飛んでいる時、耳を落とし、その耳が大海原の底に沈んだとあります。その落とした耳が転じて「竜の落とし子」であるとも言われています。耳の不自由な人を表す「聾(ろう)」という字は龍の耳と書きます。全日本ろうあ連盟のシンボルマークはタツノオトシゴです。



キヤッチされるのです。

浦島太郎が、助けた亀に連れられて龍のすみかである水深い竜宮城に行き、乙姫様に歓待され、地上へ戻って来たら、はるか長い年月が過ぎていて玉手箱を開けると、みるみる年老いてしまった。幼い時間いた

のです。その上で遍く十方の世界を照らして全ての人を智慧の光で救って下さると云われます。人は何事も自分の利害や感情が先に入って、表面だけで見て判断していることが多いのです。だから表面だけでなくまず心を見つめて、自分の行いの根本から深く罪と福の相(心)を見極め、罪を改め福を得ることが大事だということです。その心が仏様の心に通じ、自分の生きる姿に表れ、その姿を見られることによって、仏様を敬う龍神を始めとする神々の力が人にも差し伸べられるのだと云われます。

この話は単なるおとぎ話でしょうか？

龍(辰)は架空の生き物と言われていますが本当でしょうか？ 干支(えと)の十二支の内、龍(辰)だけは伝説の生き物だと勘違いするなど仏様は云われます。龍神は神霊の世界では実在しているのです。

普通私たちが見えないだけなのです。人間の心の中は深海よりも深いのです。誰でも心の奥底に、竜宮城という綺麗な魂の世界を持っているのです。

何れ命が帰って行く処。浦島太郎がこの世に戻って来たように、人の命も輪廻してこの世に再び舞い戻るには長い月日を経るのです。竜宮城は魂の故郷であると思います。

龍神は大海に落とした耳を通して、水中のソナー(探知機)のように、人々の心の海の奥に潜む、気付かれない心の闇までも見通し、キヤッチされるのです。

日蓮宗の総本山、身延山久遠寺大本堂の天井には、この法華經の根本道場を守護する『墨龍』(ぼくりゅう)が、十一メートル四方の金箔に墨で描かれています。日本画家の加山又造画伯によるものです。

身延山はお釈迦様が法華經を説かれた靈鷲山に等しい聖地でもあります。この教えを元として合掌する人々の心の中に、神仏の使いである龍神の持つ宝珠(苦難を切り開く智慧)が授かることを気づかせてくれているのです。合掌 本興寺住職 中谷 聰 秀